

COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

アイリッジ

3917 東証グロース市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 11 月 18 日 (火)

執筆：アナリスト

山本泰三

FISCO Ltd. Analyst **Taizo Yamamoto**



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

決算数値の悪化は一過性、類似企業の評価に近づけば株価は 3 倍

企業向けスマホアプリの企画・開発運用支援やアプリビジネスプラットフォーム「APPBOX」の開発・運営、統合マーケティング支援やビジネスコンサルティング・実行支援などを手がけるアイリッジ<3917>が変化の時を迎えている。のれんの損失処理にめどを付け、中長期の計画達成に向けて順調に歩を進めている。ヤブリの評価に収れんすれば、3 倍近い株価の上昇も期待される。

2Q 決算の小幅増益と赤字転落は一過性、協業案件が急速に立ち上がる

1. 2026 年 3 月期第 2 四半期決算の概要

第 2 四半期（2Q）累計売上高は前年同期比 7.4% 増 3,096 百万円、調整後営業損益（営業利益＋株式報酬費用＋M&Aにより生じた無形資産の償却費用＋その他一時費用）は 83 百万円の赤字（前年同期は 99 百万円の黒字）、経常損益は 92 百万円の赤字（同 75 百万円の黒字）となった。なお、当該数値は 7 月 1 日付で株式譲渡を行った関係会社が営むフィンテック事業の実績を除外した数値を表示となる。小幅増収、営業損益の赤字転落となるが、売上高は例年下期に発生しているビジネスプロデュース事業の大型案件が前年 2Q に発生した影響から 2Q 累計で減収となっていることに加え、採用を含む先行的な投資を実施した結果であり、売上高は概ね期初想定通り、調整後営業利益は先行投資に係る今期中の成果創出・売上の追加獲得等により、通期業績予想の達成を図る。

2. 2026 年 3 月期の業績見通し

ディップと共同開発している新サービス「バイトルトーク」をはじめとする EX-DX 領域の売上高が 2Q のみで前年同期比 6.6 倍の 291 百万円に達するなど急速に立ち上がりつつあり、通期予想の売上高 7,200 百万円（前期比 7.3% 増）、営業利益 270 百万円（同 23.2% 増）は変更されていない。売却したフィンテック事業を除いた成長率は、売上高で前期比 18.3%、営業利益で同 117.7% となる。

長期目標は 2030 年 3 月期で売上高 150 億円・調整後営業利益 15 億円

3. 中期経営計画、類似企業との比較、株主還元

同社は、小売・鉄道・金融業界等の大手企業を中心に強固な顧客基盤を有しており、ファミペイアプリやコーナンアプリ、【コスモの公式】アプリ、WESTER など、いままで 300 を超えるスマホアプリの企画・開発・運用を支援してきた。同社ソリューションが導入されたアプリは MAU で 1 億を超え、増え続けている。ここまで大企業との取引・実績が多い背景には、スマホアプリを中心とした高度な開発力を有しており、同社プロダクト「APPBOX」や外部のソリューションも活用し、スマホアプリを中心に戦略・企画の策定から開発・グロースま

で一気通貫で支援できる点にある。また、これまでの開発実績により多くのカスタマイズ・連携実績のノウハウが蓄積されており、あらゆる顧客要望に対応可能となっているほか、大型アプリの開発は開発力や実績が必要で、競合が少ない点も同社の強みとなっている。顧客企業の戦略から課題解決までトータルで支援してきた実績を活かして、ビジネスプロデュース事業も展開している。

2027 年 3 月期を最終年度とする 3 カ年の中期経営計画では、開発力やビジネス創出力の活用と顧客企業のパートナーシップの強化による顧客提供価値の向上に取り組んでいくようだ。APPBOX の機能拡張に加えパートナー連携を強化することで、顧客層を拡大し、受託開発領域から顧客企業のアプリ領域を中心とした事業プロデュース支援へ拡張していく。既に、ディップ<2379>との提携を行っており、DX サービスの共同提供を図っている。今後も顧客企業と同様の提携を拡大することで、強いパートナーシップの実現を目指す。また、足もとでは博報堂と資本業務提携を実施し、合併会社を設立。アイリッジの持つ大型のアプリ開発を遂行するプロジェクトマネジメント力及び開発力と、博報堂が持つ生活者接点全体をデザインするクリエイティビティを掛け算し、顧客接点を中心としたデマンドチェーン変革に向けて協業する。大企業との連携強化には注目しておきたい。数値目標としては、2027 年 3 月期の売上高は 82 億円、調整後営業利益は 5 億円以上をオーガニック成長のみで達成し、新規事業の成長や M&A により売上・利益を更に積み上げていくようだ。長期目標には 2030 年 3 月期に売上高 150 億円・調整後営業利益 15 億円の達成を掲げている。

ヤプリ<4168>と比較した成長率などは劣ってきたが、中長期計画の達成へ歩を進めると、アイリッジのパフォーマンスが比較優位となる可能性もある。ヤプリの 2026 年 12 月期へ向けての調整後 EBITDA 目標は 10 億円超、CAGR で +16% 超ということになる。アイリッジの調整後営業利益は 2027 年 3 月期の数値で +66.7% (2026 年 3 月期予想比較)、2030 年 3 月期で +49.5% (同)、絶対的な数値でも見劣りしなくなる。ヤプリの時価総額は 120 億円を上回っており、アイリッジのそれは約 39 億円。ヤプリの評価に収れんすれば、3 倍近い株価の上昇となる。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは強く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp